



「あなたがかけられる人につづくり
研修大会意見発表」



日置中学校1年 藤嶋 由紀

私には、今でも心に強く残っている出来事があります。

あれは、小学校六年生のときのことです。ある日、足の悪いおばあさんが道を歩いていました。私は、学校が終つて、友達三人と帰る途中でした。その足の不自由なおばあさんは、足がマヒしているせいか、足になにかをつけておられました。少し

ひざが、ガクガクしていました。しばらくして、突然おばあさんのひざが地面についたので、びっくりしました。そのときです。友達の一人がおばあさんのそばによつて

「だいじょうぶですか」とたずねました。するとおばあさんは「はい、だいじょうぶです」とおっしゃったので私は、安心しました。私は、友達に

「すごいね」と言いました。私は、友達のごく自然な行動にとても感動しました。

私は、どちらかというと、引

つ込み思案な方なので、友達のように困った人になかなか声がかけれなく、通りすぎることはありません。そのときは、少し気になり心残りすることがあります。結局は、同情だけで終つて、人にかかわることのできない自分でいたからです。一言のやさしい言葉をかけてあげられる友達のようになれたらいいなと思います。

中学一年の六月の日の帰り道、ものすごい大雨になったので、友達と雨やどりをしていました。ある友達が後ろをふり返つて見たらあの足の悪いおばあさんが、大雨の中ひざを地面につけて、足が立たないようにでした。それを見た私は、すぐさまおばあさんの所へ行つて、家まで連れていってあげました。

おばあさんは、あの雨の中おし車を持っていませんでした。あの時私達が、助けなかったら、とてもあぶない事になっていたかもしれません。

おばあさんは、何度も「ありがとう、ありがとう」と言つて感謝しておられました。

私が、一人だったらおばあさ

日置俳壇

〈兼題 立春〉

〈雑詠〉

立春の天外に翔る鳥の群

窪田 由来

春立つてボラが跳ねとぶ入江

石川 静子

残雪のまだく山なす立春

国司ハル子

立春や弾けんばかり梅蕾

石川 静子

立春の雪のつぶてにとまどいぬ

西村亥子代

立春の陽に球打てば冗句とぶ

国司ハル子

立春や朝の味噌汁ふきこぼす

富田佳津美

庭隅に雪少しあり春立ちぬ

宮本やすの

記念樹の梅も古木となりにつ

木村 一路

深雪晴一人も乗らぬ始発バス

柚花 岩門

カチくの残雪老の手に負えず

国司ハル子

遠目には梅と見紛うみくじ札

石川 静子

大雪や父の夜遊びしばし止む

大永 邦代

白梅や親子で詣でる天満宮

宮本やすの

大壺に野梅の蕾青みそむ

松岡ヨシ子

大寒や籠りて独りの長電話

白石 敏江

んを助けることができなかつたけど、雨の中友達と協力して助ける事ができました。あの時友達が、後ろをふり返らなければ、あのおばあさんは、どうなつていたのだらうと思います。雨の中ぬれてしまったけどおばあさんを手助けされて私の心は晴れやかで、暖かい気持ちになれました。

私は、友達の行動を見て、一緒に行動してたくさんのお話を学びました。人を助けてあげられる勇気を教えてもらいました。

思いやりの心は人の心を暖かくするだけではなく自分の心も暖かくするものだと思うからです。